

川崎市 市勢要覧 2021

# カワサキノコト



## Colors, Future!

いろいろって、未来。

多様性は、あたたかさ。多様性は、可能性。

川崎は、1色ではありません。

あかるく。あざやかに。重なり合う。

明日は、何色の川崎と出会おう。

次の100年へ向けて。

あたらしい川崎を生み出していこう。



川崎市

*Think NOW! Shift 20XX!*

今こそ考えよう。そして川崎の未来をつなごう。

川崎市ホームページ



川崎市

検索

川崎市LINE公式アカウント  
市の重要な情報をLINEでお届けします



LINE ID

@kawasakicity

検索

川崎市シティプロモーション  
Twitter

川崎が好きな情報が満載です



Twitter

@kawasaki\_pr

検索

カワサキノコト 川崎市 市勢要覧 2021

2021(令和3)年4月発行

発行:川崎市総務企画局シティプロモーション推進室 〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地 TEL044-200-2287 FAX044-200-3915

制作:(株)SBSプロモーション首都圏支社 〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目3-7 TEL03-6263-8778 FAX03-6263-8779

# カワサキノコト

## Contents

4

### Opening

今こそ考えよう。そして川崎の未来をつなごう。

6

### 川崎の未来を考える人

Think NOW! Shiji 20XX!

- 01 | 中村 憲剛 元川崎フロンターレ選手
- 02 | 三笥 薫 川崎フロンターレ選手
- 03 | 黒崎 大輔 千代田化工建設
- 04 | 金古 紗織 川崎キングススカイフロント東急REIホテル
- 05 | 西野 博之 子ども夢パーク
- 06 | 石井 麗子 プラスケア(コミュニティナース)
- 07 | 石井 秀和 南荘石井事務所
- 08 | 今 富子 麻生区民生委員児童委員協議会
- 09 | 上原 脩太 多摩消防団稲田分団管班



16

### 市長対談

Talk about Kawasaki's 20XX

### 川崎の可能性

川崎市長 福田 紀彦 × 川崎フロンターレ 天野 春果



20

### カワサキ・サステナ・スポット

KAWASAKI Sustainable Spot

カワスイ 川崎水族館/とんもり谷戸  
かわさき宙と緑の科学館/夢見ヶ崎動物公園/等々力球場  
王禅寺エコ暮らし環境館/ノクティプラザ



24

### 川崎SDGsのある暮らし

Life in the SDGs KAWASAKI

#### 川崎・幸・中原区

リポーター:川崎ワカモノ未来PROJECT運営

#### 高津・宮前・多摩・麻生区

リポーター:じもたんkids



## 川崎市 市勢要覧 2021

28

### 川崎市総合計画

みんなでつくる 最幸のまち かわさき



34

統計データ 数字で読み解く川崎市

38

### 歴史で見る川崎市の姿

40

名誉市民・市民文化大使など

41

川崎市議会・市民オンブズマン制度など

42

川崎市歌・川崎市民の歌など



# Think NOW! Shift 20XX!

今こそ考えよう。そして川崎の未来をつなごう。

「カワサキノコト 2021」の表紙は市民の手形でつくった手のひらアートです。  
アーティストの板鼻美幸さんに描いていただいたモチーフは、つなぎ合う手と手。

コロナ禍で、接触することがいけないとされているこの時代だからこそ、  
あえて「触れ合い」、「つながり」をテーマとして選びました。  
私たち一人ひとりが地に足をつけて考え、他者のことを思いやり、  
人と人との結束を深めることが、次に進むために欠かせないと考えたからです。  
手形を集めたいという呼びかけに予想を遥かに上回る方が手を上げてくれました。  
「川崎には可能性にあふれた熱い思いがある」ことが確認できた瞬間でした。

ひとつひとつの手形は別々に集めたものですが、  
押ししてくれた皆さんの思いは、川崎の未来に寄せる思い“ひとつ”です。

「カワサキノコト 2021」は、先行き不透明なこの時代に、  
川崎の未来を考える人やその活動を通して 20XX の可能性を見つめます。

今回の手のひらアートに集まった手形は最終的に729になりました。ご協力に感謝申し上げます。  
掲載している写真は、撮影のため一時的にマスクを外していただいたものもあります。



Cover Art by Miyuki Itahana



板鼻 美幸(いたはな・みゆき) アトリエサキアン代表。1981年生まれ、宮城県仙台市出身・中原区在住。6歳と8歳の2児の母。自身が考案した「のひらアート」というアートパフォーマンスを、ビッグアートや親子向けワークショップなどさまざまな形で展開中。空間デザイナーとして全国美術館の展示デザインも手がける。





# 02 三笥 薫

川崎フロンターレ選手

みとも・かおる：1997年5月20日生まれ。川崎フロンターレ・アカデミー出身。高校卒業後、筑波大学を経て2020年から川崎に正式加入。新人最多タイとなるシーズン13得点を記録するとともに、新人史上初の「シーズン2桁得点、2桁アシスト」を記録し、ベストイレブンも受賞。ドリブル・パス・シュート…どのプレーでも魅せる期待の選手



子どもたちの模範を目指して  
温かなサポーターとともに、未来へ

©KAWASAKI FRONTALE

# 01 中村 憲剛

元川崎フロンターレ選手

なかむら・けんご：2003年に川崎フロンターレに入団。以降、川崎一筋を貫き、2016年には史上最年長でリーグMVPを受賞。2017年のJ1初制覇から4季連続タイトル獲得の現在に至るまでのクラブ黄金期をけん引したまま、40歳の節目に引退。誰よりも地域交流活動に取り組み、クラブの成長とともに活躍を続けた川崎の象徴的存在。歴代3人目となる川崎市市民栄誉賞を2020年12月に受賞した



「無から始まった無限大への道  
「やろうと思えばなんでもできる」

## Think NOW! Shift 20XX! 川崎の未来を考える人

©KAWASAKI FRONTALE

川崎の象徴としてチームをけん引し、2020年シーズンで引退した中村憲剛さん。改めて振り返る、2003年入団時の「川崎」のイメージは？  
「良くも悪くも「無」でした。学校で習った工業地帯といったワードが浮かぶくらい。そんななか、フロンターレに入ってみると、クラブ全体で「地域に密着しよう」「市民の皆さんに喜んでもらえるクラブになろう」と合言葉に、さまざまな交流活動がスタートした時期でした。その輪に入ることで、プレー以外の価値も見いだせたことは自分の財産になりましたし、まちとクラブの発展とともに人間的にも成長できました。本当にフロンターレに入ってよかったです」

ただ、優勝できるようになる以前は、交流活動そのものに否定的な声も届いたと言います。「シルバークレクターと揶揄された時代」「本業以外の活動がプレーの足を引く張っているんじゃないか」と言われた時期もありました。だけど僕たちは、そんなわけない、と確信していたし、「地域に喜ばれる活動ができずに何がプロクラブだ」という思いもありました。その意味で、みんなで最後まで諦めずに優勝を目指した結果、今がある。誰かが下を向いたら諦めたりしていたら、今のようにはなっていないかった。サポーターの根強い後押しにも感謝ですね」  
現役ラストシーズン、そんなサポーターが陣取る等々力陸上競技場で、憲剛さんは「ケガからの復帰戦ゴール」「バースデー弾」「地元でJ1制覇」と数々の伝説的なシーンを生み出しました。



フロンターレU-12時代の三笥選手。選考会を勝ち抜いた同世代の逸材が捕らう中、5年生からスタメンを勝ち取り6年生では主将を任された。

切れ味抜群のドリブル突破と、新人最多ゴール記録を飾った決定力で、2020年シーズンの川崎フロンターレJ1制覇と天皇杯優勝の二冠達成に大きく貢献した三笥薫選手。その原点は、生まれ育った川崎にありました。  
「小4で下部組織に加入して以降、「フロンターレでプロになる」という気持ちはずっとありました。小学生の時（中村）憲剛さんのエピソードとキッズとして入場し、雰囲気や観客の多さを目の当たりにして、「これがプロか」と感じたのを覚えています」  
大学入学を機に地元川崎を離れても「川崎愛」が揺らぐことはなく、むしろ、離れたからこそ気づいたことも多かったと言います。

「川崎は、自然や商業施設も多く暮らしやすいまちです。大学時代、川崎に帰ったとき、安心する場所など感じていましたし、何よりも川崎には応援してくれている人たちがいます。だ

にもかかわらず集まってくれたサポーターの応援があったからこそ、応援の力は偉大だと改めて感じました。そんな川崎の皆さんの前で優勝できたことは、ラストシーズンとして出来過ぎです。等々力には僕にとっての家みたいな感覚、特別な場所です」  
有終の美を飾り、新たな一歩を踏み出した憲剛さんのこれから。そして、川崎市とフロンターレの未来に抱くイメージとは？  
「これまでどっけきた道は間違いないはずだし、やろうと思えばなんでもできる。引退した僕これからだって可能性は無限大です。だから、僕はこれからのことが楽しみではない。もちろん、フロンターレからも川崎からも離れる気はさらさらありません。これからも皆さんと一緒に、みんなが明るく楽しく元気に過ごせるまらになるようにフロンターレと一緒に、その役割の一端を担ってみたいですね」

「憲剛さんから学んだのは、サポーターの皆さんを大切にする精神です。『プロ選手』には、ただサッカーをするだけでなく、人としての姿勢も求められます。憲剛さんのように技術だけでなく、チームを一つにまとめる求心力においても「この人はすごい」と思わせる選手に僕もなりたい。そして、そんな自分の姿勢を通して川崎の子もまたにも「サッカーって楽しい」「プロになりたい」と思ってもらいたい。もちろんサッカーじゃなくてもいいんです。大事なのは、努力は裏切らないことを知り、目標や夢をもって頑張ること。その模範となるよう、僕だけでなくチーム全体でもっと成長していきたいです」

「あの復帰戦ゴールは、コロナ禍で大変な時期



2020年12月21日に行われた引退セレモニー。トランペットによるケンゴチャントが響く中、サポーターの前に登場した憲剛さん。



## 04 金古紗織

川崎キングスカイフロント  
東急REIホテル 管理部門

かねこ・さおり:2018年より株式会社東急ホテルズ本社にてSDGsに関わる業務を担当。2020年より川崎キングスカイフロント東急REIホテルの管理部門に移り、「日本初のCO<sub>2</sub>フリー電力ホテル」の取り組みを発信している



キングスカイフロントから  
新しいホテルの形を発信したい



発電の副産物のお湯を利用した大浴場



植物工場で栽培されるレタス

川崎区殿町地区に位置するキングスカイフロントは、健康・医療・福祉・環境など、世界最高水準の研究機関が集まる国際戦略拠点です。川崎キングスカイフロント東急REIホテルは、環境省の実証事業に参画し、その立地を生かした使用済みプラスチック由来の水素を利用した「世界初の水素ホテル」として注目を集めています。「水素エネルギー利用のホテルは他にもありますが、当ホテルには二つの大きな特徴があります。まず、使用済みのプラスチックを原料に低炭素で製造した水素を使用していること。そして、その水素をパイプラインで供給することで、輸送時も二酸化炭素を排出しないことです。敷地内には、昭和電工川崎事業所から運ばれてき

た水素エネルギーを電力に転換する燃料電池があるので、「二酸化炭素を排出することなく全館の30%の電力を賄っています」管理部門の金古紗織さんによると、水素による一日の発電量は4人家族約82世帯分、1年間の二酸化炭素の削減量はスギの木約1万4千本分に相当するそうです。開業から1年間は、水素の原料として使用済みのホテルアメニティを提供。水素発電の副産物として生まれるお湯は大浴場などで利用しているの、宿泊者は気付かないうちにSDGsを実践していることとなります。

「ホテルには、ぜひたくを楽しむ」という面があるため、環境には厳しい存在と言われてきました。その点、当ホテルはホテルステイを築きながらエコ体験ができるんです」さらに、使用電力の残り70%を賄うために、食品廃棄物を発酵させることで発生したバイオガスで発電することで、食品廃棄物リサイクル100%を実現。その電気を購入することで地域循環型エネルギーの利活用の仕組みを確立させました。

「メディアで紹介されることも増えてきたので、興味を持ってこま館くださる方もいらっ

「ホテルには、ぜひたくを楽しむ」という面があるため、環境には厳しい存在と言われてきました。その点、当ホテルはホテルステイを築きながらエコ体験ができるんです」さらに、使用電力の残り70%を賄うために、食品廃棄物を発酵させることで発生したバイオガスで発電することで、食品廃棄物リサイクル100%を実現。その電気を購入することで地域循環型エネルギーの利活用の仕組みを確立させました。

「メディアで紹介されることも増えてきたので、興味を持ってこま館くださる方もいらっ



ケミカルタンカー(イメージ)



脱水素プラント(東亜石油京浜製油所)

臨海部のさまざまな企業と  
タッグを組んで  
水素社会の実現を目指す



脱炭素社会の実現に向けて、水素エネルギーの活用が脚光を浴びています。川崎市では2015年度に「水素社会実現に向けた川崎水素戦略」を策定し、さまざまなプロジェクトを展開しています。その取り組みの一つとして、千代田化工建設は三菱商事・三井物産・日本郵船とともに次世代水素エネルギーチェーン技術研究組合(AHEAD)を設立。新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の支援の下、川崎臨海部を拠点とする国際開水素サプライチェーン実証を行うことができました。

「水素を究極のクリーンエネルギーと言われるが、大量貯蔵と長距離輸送に課題がありました。その課題を解決し、海外から大量の水素調達を可能にしたのが、弊社が開発したSPERA水素技術です」千代田化工建設の黒崎大輔さんは、海外で調達した水素を液体化して輸送する技術の開発に取り組みしてきました。その技術的ブレイクスルーとなったのは、液体から水素を取り出す脱水素工程で使われる触媒の開発に成功したこと。これにより、フルネイで調達した水素を常温・常圧下、液体の形で日本へ輸送し、川崎臨海部で気体の水素に戻した上で需要家に供給する、世界初の国際開水素サプライチェーン実証事業を実施することができたのです。

「水素社会を実現するためには、まず水素の認知度を上げることが重要です。SPERA水素技術の開発により、海外の安価な水素を安全に輸入できることが示されたので、次は具体的な活用方法を提示する必要があります。需要先の開拓は課題の一つでしたが、臨海部で水素戦略を推進する川崎市と連携することで、東亜石油との協働が実現しました」2020年、東亜石油水江発電所の一部で水素発電を行う実証実験がスタート。これにより調達から貯蔵、輸送、販売に至るサプライチェーンが整い、水素エネルギーは実用化に向けて大きく前進しました。

「水素が優れているのは、言うまでもなく燃焼しても二酸化炭素を排出しないことです。コスト面ではまだ課題がありますが、できることから少しずつ取り組んでいきたいと思っています」川崎市と川崎臨海部水素ネットワーク協議会による「川崎水素戦略の取り組み」は、2020年に開催された国内企業のイノベーションによる新産業の創出などの取り組みを表彰する第8回プラチナ大賞において、優秀賞、次世代社会づくり賞に選定されました。

## 03 黒崎大輔

千代田化工建設株式会社 水素チェーン事業推進部  
水素事業企画・開発セクション グループリーダー

くろさき・だいすけ:2014年より川崎臨海部における SPERA水素の事業開発に携わり、AHEAD実証プロジェクトの実現に尽力。エネルギー分野での経験を生かし、水素の社会実装、脱炭素社会の実現を目指し、日々取り組む

「ネットワーク協議会の取り組みは、全国的にも先進的なものです。重工業産業が多く集中し、都心にも近い川崎臨海部は、水素社会のモデル地区にふさわしい立地地帯だと思います。AHEADの取り組みは2020年度で一旦終了しますが、今後は川崎臨海部の企業と広く協働し、水素社会の実現を目指したいです」





## 05 西野博之

子ども夢パーク 所長  
認定NPO法人フリースペースたまりば 理事長

にしひろゆき: 1960年生まれ。1986年から子どもや若者の居場所作りに関わり、1991年に高津区で「フリースペースたまりば」を開く。2003年子ども夢パーク内に「フリースペースえん」を開設し、2006年からは子ども夢パーク全体の運営管理を行っている。「日本ユニセフ協会 子どもにやさしいまちづくり事業(CFC)委員会」委員、神奈川大学非常勤講師

障害やコミュニケーションに困難を抱え、就学や就労が難しい18歳以上の人もいて、年齢も異なるさまざまな人が交流し、楽しく遊び、学び合っています。

「2000年に川崎市は日本で初めて『子どもの権利に関する条例』を制定しました。これがものすごく大きかったですね」と西野さん。子どもが『ありのままの自分であること、休息して自分を取り戻すこと、自由に遊び、若しくは活動すること又は安心して人間関係をつくり合うこと』という条文(第27条)に基づいてこの施設は誕生し、運営されています。

「誰もが自分らしく、ありのままに居られる場所づくり。川崎市のこの取り組みは国内外から高く評価され、毎年150件を超える視察や取材があるんです」と西野さん。

そんなすてきな子ども夢パークに、突如休園の危機が訪れました。2020年7月27日、コロナの感染拡大を防ぐために、学校に休業の要請

が出されたのです。そのとき西野さんの脳裏に

よぎったのは「虐待」という言葉でした。「学校が閉じれば子どもが家で過ごす時間が増える。その分、家事の負担が増え、いら立ちを募らせた親からの虐待が増えるかもしれない」そう思った西野さんは市役所へ行き、「夢パークだけは開け続けてほしい」という意向を伝えます。すると「確かに夢パークは子どもの権利条例をもとに作ったわけだから、コロナ禍でも開け続ける必要がありますね」と前向きな回答が得られました。

もちろん感染対策は万全にしなければなりません。それでもリスクは残ります。まさにギリギリの決断をして、西野さんたちは、ここを必要とする子や親のために、夢パークの門戸を開け続けたのです。その必死の取り組みがメディアの目に止まり、子ども夢パークは居場所を見つけない人のための「最後の砦」として、全国ネットのテレビ番組でも紹介されました。そして今、再び、子ども夢パークで新たな

取り組みが始まろうとしています。

「ここにはフードバンクや企業から、まだ食べられる食品がたくさん寄せられるんです。それを川崎市内の子ども食堂や困窮している家庭に届けようと思っています。川崎市と話をしている、まずは大御堂冷蔵蔵庫を用意したんですよ」とうれしそうに西野さんは目を細めて語ってくれました。

2015年の9月に、国連は持続可能な開発目標SDGsを採択しました。2030年までに達成すべき17のゴールを設定したこの国際目標が最も大切にしている理念、それは「誰一人取り残さない」というものです。日本でいち早く「子どもの権利条例」を策定し、子ども夢パークを実現させた川崎市の取り組みは、まさにSDGsの理念を先取りしたものであるでしょう。

「こんな条例を作っちゃう川崎って、奇跡のまちですよ」

「子ども夢パーク」は、JR南武線の津田山駅から徒歩5分の所にあります。ここは約1万㎡という広大な面積を誇る子どもの解放区。敷地内にはどろんこ遊びができるプレーパーク、楽器演奏ができるスタジオ、全天候対応型のスポーツエリア、創作スペースなどがあり、子どもたちの歓声が響いています。

「ここには原則として『禁止』の看板がないんです」と説明してくれたのは子ども夢パーク所長の西野博之さん。「いまはどこに行ってもあれやっちゃいけない、これやっちゃいけないでしょう。ボールも使えないし、大声も出せない。ここでは何でもやってみることに挑戦できるんです」

子ども夢パークの一面には、「フリースペースえん」という不登校の子どもたちの居場所があります。原則平日午前10時半から午後6時まで開いていて、いつ来てもいい、帰ってもよく、自由に過ごせます。小中高生が中心ですが、

誰一人取り残さない「最後の砦」がある、川崎って、奇跡のまちですよ



屋根裏スペースだった場所に2020年に新設された多目的ホールでインタビュー。天然スキの暖板が美しい部屋。



「川崎市子どもの権利条例の条例文」が入り口横に掲げられている。





新城 WORKのラウンジスペース、コワーキングスペース同様抑え気味の照明で落ち着ける。



築47年のマンションの1階部分をリノベーションした「第六南菓子」一級建築士事務所、菓子工房や、2020年にオープンした「茶スタンド六一」などが入る。

「駅伝の一区間だと思っています。僕が引き継ぎ、次の世代に手渡すミッションです」  
曾祖父の代から続く不動産賃貸業について、そう語る石井秀和さん。武蔵新城で生まれ育ち、地元を中心に展開する「セシーズイシイ」ブランドのマンション、300世帯以上の管理を受け継いだのは2013年、38歳のときでした。物件数を拡大する勢いのあった父の時代とは異なり、厳しい状況下での承継。試行錯誤のときに出会ったのが、「まち全体の価値を高める」という考え方です。  
「それまでの僕は、リノベーションといえば建物の話だと思っていたけど、そうじゃない。まち全体を再生するために、建物がどうあるべきかが大それたことと気づきました」  
心地よさをつくるのは、住まいだけではなく、まちのあり方。向かうべき道が見えた石井さん

はマンション共用部を改装したカフェ「新城テラス」併設の多目的スペースや、港の口のシェアオフィス「クチカ」などを展開、地域と人の関わりを広げていきます。そして地元の武蔵新城でコワーキングスペースをオープンしようとしていた矢先、コロナ禍に見舞われることに。「何かあったら信頼に関わるので、まずはカフェの店内サービスを止めて宅配のみに。賃貸業ではテナントの家賃を1カ月無料にするなど、とにかく早く決断しました」  
そして「この状況を追い風に」と、「セシーズイシイ」の公式LINEアカウントを開設。防災も視野に入れ、地域との連携を深めます。

武蔵新城のコワーキングスペース「新城WORK」は、満を持して昨年11月にオープン。もともとはフリランズの利用を想定していましたが、テレワークの広がりにより会社員の利用も増加。地域のライフスタイルとニーズが変化しているなかで、石井さんが着目しているキーワードは「職住近接」です。  
「日中、横浜や東京に住民が流出している状況を変える時だと思っています。川崎は人の顔が見える、体温が伝わるまち。それが面倒くさいと思われた時代もあったかもしれないけれど、今は一周回って、地域の価値をみんなが再発見しているのを感じます」  
住みながら働ける、楽しめる、魅力あふれるまち。「そんな地域が日本が増えてお互いに行き来したら、すごく面白くなるんじゃないかな」と楽しそうに語る石井さん。駅伝のように未来へ受け継ぐミッションをしっかりと抱いて、今日も力強く走り続けます。



## 06 石井麗子

一般社団法人プラスケア  
看護師・コミュニティナース

いいい、れいこ：文学部卒業後看護大へ。医療機関・研究所等の勤務を経て2017年より一般社団法人プラスケアで暮らしの保健室を中心とした活動を始める。カフェやシェアオフィスの受付もしながら相談に乗ったりグラフィックレコーディングでイメージの可視化をしたりといった関わり方もさまざま

暮らしの中でつながるために

「知り合う人の多くが、子ども食堂など何らかの地域の活動に関わっていて、最初はびっぴりしました(笑)」と語る看護師の石井麗子さん。2017年、結婚を機に東京から川崎へ。地元愛あふれる地域に、ご自身もそれから深く関わっていくことになりました。  
石井さんが新たなスタートを切ったのは、一般社団法人プラスケアが市内各所で定期的を開催している「暮らしの保健室」。気になる体の心配事を相談できる他、お多やスキンケアなどのイベントも人気です。  
「病院の行き帰りなどに、気軽に寄ってくださる方が多いですね。例えばドクターとのやり取りで不安なことがあるときは、解決策を見つけてお手伝いをしています」  
ただし、専門職として「一方的に導くのではなく、「答えを選ぶのは、あくまでもご本人」とのこと。その姿勢の基本となっているのが、医療機関ではなくまちの中で住民とつながり、生活での楽しみや喜びを共有することで信頼を築いていく「コミュニティナース」という考え方です。  
その大切な実践の場である「暮らしの保健室」が、コロナ禍で課題に直面します。予約制にするなどの対策を講じながらも、「枠を超えてゆるくつながる」というコンセプト自体を揺るがしかねない事態。自分たちに何ができるのか、何度もミーティングを重ね、行動指針としてたどり着いた答えは「発信し続ける」。SNSやメールマガジンを活用し、ひたすら地域の人たちにメッセージを送りました。  
「以前、相談に来た方で、1年前からホーム

ページを見ていたという方がいたんです。その経験から、必ず見てくれている人がいるはずだと思えました。ご希望があれば電話でも連絡を取って、とにかく声を掛け続けました」  
厳しい状況でも、前向きに道を探る姿勢は、「できないことから入るのではなく、「これを実現したい」から入り、方法を見つける」というコミュニティナースとしての考えを学んだ経験が大きいといえます。  
「選択肢を広げるために好奇心旺盛でいたい。川崎は気軽に声を掛け合える雰囲気なので、いろいろな人とつながりたいですね」  
最後に「医療はあくまでも手段。多くの人が主体的に選んで行動できれば、もっととハッピーな人が増えると思う」と語ってくださった石井さん。柔らかな笑顔に包まれたしなやかな強さが、コミュニティを支える大きな力になっています。



同じく市内で活動するコミュニティナースと。川崎市には3人います。



## 07 石井秀和

株式会社南荘石井事務所  
代表取締役

いいい ひでかず：生まれも育ちも中原区。株式会社南荘石井事務所 代表取締役。賃貸マンションの管理、運営のほか、多目的レンタルスペース「PASAR SHINJU」や、コワーキングスペース「新城WORK」など、武蔵新城駅を中心としたエリアに住む人たちが、地域に価値を見出し愛着を持つ場作りを展開

暮らし、働く、楽しめる。魅力あふれる職住近接のまちへ





消防団の一員として、  
大好きなこの土地を守っていく



## 09 上原 脩太

イチゴ農家  
多摩消防団稲田分団管班団員

うえはら・しゅうた：多摩区菅に生まれ育つ。大学卒業後、フィットネス関連の事業を起業。その後会社を譲り、実家の農業を継ぐ際にイチゴの育て方を学びイチゴ農家を始めた。農家の傍ら、地域への貢献も兼ねた思いで2020年4月から消防団で活動している

多摩区菅稲田堤。多摩川の河原からほど近い住宅街の一角にある「上原さんちのいちご畑」を営む上原脩太さんは、2018年からこの土地でイチゴ作りを始めました。

「大学を出てから起業して、フィットネス関連の事業をやっていたんですが、結婚を機に会社を人に譲り、地元で農業に就くことにしました。父が農家で、自分が子どもの頃のこの近所には、たくさん畑があったんです。でも後継者不足の影響もあって、今は多くが駐車場やアパートに変わってしまいました。だから、自分が育ったこのまちで、大好きなイチゴを作りたいと思ったんです」

上原さんに入団のきっかけを聞くと、「地元で農家をやっていく上で、もっと人とのつながりを増やしたかったし、活躍している消防団員の姿を見て、自分もやらなければと思ったのが理由です」

大学ではライフセービング部に所属し、主将まで務めた上原さん。「学内で消防団の募集があった時、ふと思いついたのが、自分が子どもの頃、消防団員として活躍していた父の姿でした。当時、進路として消防士を考えていたこともあり、在学中の2年間、大学内の消防団員として活動していました」

2020年4月から正式に、地元、多摩消防団稲田分団の団員となった上原さんですが、残念ながらコロナ禍の影響で交代式などの式典は延期に。「機材の点検や訓練はありましたが、集まりにも人数制限があり、思うような活動はできませんでした」それでも昨年の1年間だけで4回も災害現場に出場し、年末



上原さんは多摩消防団稲田分団管班に所属。先輩団員と力を合わせて地元の安全を守る一翼を担っています。

の火災予防広報などでも活躍しました。

消防団の団員は、自分の仕事を持ちながら、消防士と一緒に地域を火災や災害から守る大切な役割を担っています。

「出場の要請があるとき、携帯に連絡が入ってくるんですけどね。そうすると活動服に着替える間もなく、普段者のまま飛び出していきます。いつ災害が起こるか分からないので、日頃からお酒も控えるようにしています」

生まれ育った菅のまちが大好きという上原さん。「ライフセービングで鍛えた持ち前の精神力と体力を生かして、このまちを守る活動を続けていきたいです。その自分の姿をみて、自分と同じようにこのまちが好きという人が増えていくとうれしいですね」その眼差しは未来へと向いています。

困り事があっても、誰に助けを求めたらいいのか分からない。そんなときにサポートしてくれるのが、行政と地域住民のパイプ役である民生委員です。現在、川崎市民生委員児童委員協議会の副会長などを務める今富子さんは、民生委員となって16年目。

「父親譲りだ」とよく言われます。実家は福島で、地域や人のお付き合いをとっても大事にする家庭でした。その中で育ったので、皆さんを支えることは私にとって自然なことなんです。」

人々が何かで困ったとき、民生委員として、厳しい現実を突きつけられた2020年。コロナ対策で対面を避けなければいけない状況のなかで、今さんは考えます。

「誰も声をかけなかったら、特に一人暮らしの高齢の方は『見放された』と思うのではないかと、心配でたまりませんでした。そこで、協議会の名前が入ったウエットティッシュとボールペンに民生委員の連絡先と一言のメッセージを添え、みんなでポストインクして回りました」と

すると、その日のうちに多くの方から感謝の電話が。今さんが協議会会長を務める麻生区から始めたこの活動は、幸区や宮前区などの地域にもそれぞれ内容を工夫して広がっていきました。そのとき、他の地区会長さんたちへ伝えたいのは、心を込めた「手書き」の大切さ。

「お元気ですか、何かあったらお電話くださいねと、ほんの一言でいいのでお話をするような文面ですと提案しました。手書きですごくうれしいものですからね。私自身がそう思いますから」

今さんがそう言うで取り出したのは、麻生東第2地区の副会長さんからの年賀状。「今さん



コロナ禍でも何かできることを考えて始めたウエットティッシュとボールペンとメッセージのポストインク。



かつてもらった手書きの年賀状は初心に帰るお守り的存在に。

の健康を支えます」という一言に涙があふれずと持ち歩いてるそうです。

「私は周りの方に恵まれていてありがたいです。市や区のフォローも素晴らしい。地域みまもり支援センターの所長さんも会長会の集まりに毎回参加して、アドバイスをくださいます」

新百合ヶ丘に住んで40年以上。民生委員になる前から小学校の運営に関わるなど、地域とのつながりが長く深い今さん。時代が変わり、これからの課題にも目を向けています。

「高齢者だけでなく、介護する人のケアも大切。これからはヤングケアラーも増えるでしょう。民生委員として、その人たちがいかに手を差しのべられるかが大事だと思います」

どんなときでも、一人ではない。途切れることのない温かさが確かにここにあることを、今さんの言葉が教えてくれました。



## 08 今 富子

民生委員児童委員

こん・とみこ：新百合ヶ丘に住み始めた当初から小学校PTAをはじめ地域とのつながりを大切にしてきた。在住は40年以上に。川崎市民生委員児童委員協議会 副会長、麻生区民生委員児童委員協議会 会長、麻生東第2地区民生委員児童委員協議会 会長も務める

たった一言でも、  
「あなたのことを見守っていますよ」と伝えたい





川崎市長  
**福田紀彦**  
Norihiko Fukuda

川崎フロンターレ  
タウンコミュニケーション部部長  
**天野春果**  
Haruka Amano

## Talk about Kawasaki's 20XX 川崎の可能性

困難な年だった2020年。その中で川崎フロンターレのJ1優勝は川崎市民に力を与えてくれました。10年連続で「ホームタウンで大きな貢献をしているクラブ」1位に選ばれているフロンターレは川崎の誇り。フロンターレの地域貢献活動の仕掛け人の天野春果さんと、福田紀彦川崎市長が20XXに向けて、川崎の可能性について語り合いました。

### 川崎フロンターレの優勝に思うこと

**福田** 2020シーズン、川崎フロンターレは2年ぶり3回目のJ1リーグ優勝を果たしました。多くの人に勇気や感動をもたらしてくれたことに改めて感謝申し上げます。天野さんは、一時期フロンターレを離れて東京2020組織委員会に出向されていましたが、どうですか、久々にフロンターレに戻ってきて優勝した気分は。

**天野** 実は僕、24年間もフロンターレに関わっていたのに、優勝は初めてなんです。優勝の瞬間は等々力にいて、いろいろな思いが湧いてきました。でも、直後に黄金風呂を用意して銭湯の屏風絵を背景に撮影することになって、本物の銭湯絵師が描いた貴重な絵だったので、壊しちゃいけないってことが頭にあった、感激に浸る余裕はなかったですね。**福田** それ、分かります。裏方に徹しなくちゃいけない立場にいると、当事者ではあるんだけど、どこか少し引いたところから見ている

んじゃない。 **天野** そうなんです。僕の場合は東京2020組織委員会に3年半行っていて、その間はスタッフとしてじゃなく、観客として試合を見ていました。サポーター目線で見ることで、「あ、お客さんはこんなところで見ている。こんなことに感動するんだ」と改めて分かりました。それを経験できたのがよかったですね。

### 地域に貢献するフロンターレのプロジェクト

**福田** 川崎フロンターレは、ユニークな地域貢献プロジェクトをいろいろやっています。「川崎フロンターレ算数ドリル」とか、いっしょにおフロんた〜れとか「宇宙強大2DAYS」（18ページ参照）とか。Jリーグでも「ホームタウンで大きな貢献をしているクラブ」に10年連続で1位に輝いています。

**天野** 市長に伺いたいですけれど、その中で何が一番印象に残っていますか？

**福田** いろいろありますけれど、やっぱり宇宙ですかね。「宇宙強大2DAYS」。どこまで行くんだって、ついに宇宙まで行っちゃったって（笑）。サッカーチームのサポーターが宇宙とつながるって、すごいことをやってるなって印象があります。

**天野** 僕が行くと市の職員の人自身が身構えるんですね。「今度は何だ」って（笑）。でも、川崎市の素晴らしいところは、どんな企画を持っていても最初から「できません」とはならないんです。とりあえず話は聞いてくれます。そして、なんとか実現する道を模索してくれます。宇宙とかいうと突拍子もないことのように思えるけれど、最初の0を1にするのは大変ですが、やってみれば意外とできるんです。フロンターレは川崎市と一緒にやるプロジェクトが多いのですが、川崎市の皆さんの協力が本当に助けられています。

**福田** プレイバックサテニスさんとか、レッドロケッツさんとか、川崎市にあるプロスポーツチームが地域と関わっていくとき、お手本にしているのが川崎フロンターレなんです。

ふくだ・のりひこ 1972年生まれ。川崎市立長沢小学校・長沢中学校卒業後、渡米。米国アトランタ・マックINTOSHハイスクール、ファーマン大学政治学専攻卒業。神奈川県議会議員、神奈川県知事秘書、早稲田大学マニフェスト研究所客員研究員などを経て、2013年川崎市長に就任する。現在、2期目、宮前区在住

あまの・はるか 1971年生まれ。ワシントン州立大学でスポーツマネジメントを学び、アトランタ五輪にボランティア参加。その後、富士通川崎フットボール（現川崎フロンターレ）のホームタウン推進室でクラブの地域貢献活動を推進。2017年東京2020組織委員会に出向。2020年10月に復帰し、タウンコミュニケーション部部長として、市民から愛されるクラブづくりにまい進中



## フロンターレの地域貢献活動



川崎市内の各小学校に毎年配布される算数を楽しみながら学べる「川崎フロンターレ算数ドリル」。



2010年にスタートした川崎市内銭湯の利用促進キャンペーン「いっしょにおフロたな〜れ」。



国際宇宙ステーション (ISS) と等々力陸上競技場を結んだ生文信で話題になった「宇宙強大2DAYS」。

また、フロンターレさんも自分だけで抱え込まずに、「一緒にやりましょう」という姿勢を見せてくれます。フロンターレ×川崎市フロンターレ×〇〇というふうに、かけ算になっていく。1+1じゃなくて、価値を何倍にもするかけ算をやっていたらいいなという感じがしています。

**天野** 僕がフロンターレに入った20年ぐらい前は、プロスポーツ選手といえば憧れで、口も利けない遠い存在でした。でも、それは違うと思ったんですね。フロンターレは川崎市民の皆さんの代表として戦っている存在なんだって。僕がいつも意識しているのは、甲子園なんです。同級生が甲子園に行ったら、全力で応援するじゃないですか。選手というのは市民にとって、それぐらい身近な存在、「い」とこのお兄ちゃん」ぐらいの距離感がいいと思うんですね。

自分たちの力を引き出すために、他の団体さんと化学反応を起こして、足し算ではなく、かけ算をやるのが大切で。そこで思ってた、頑張ったことが次へとつながっていく。そしてまた違う団体を入れて、もっと面白いことやってみようかと発展していています。

## スポーツの力と、川崎の可能性について

**福田** 一昨年ですが、台風被害のとき、翌日にフロンターレの試合がアウェーであって、頑張った勝ったことでもすごく勇気ももらいました。サポーターも被災地に駆けつけてくれた、クラブが一丸となってやってくれた。スポーツの力ってすごいなと実感しました。

**天野** 災害といえば、コロナも似た面があります。私たちの生活を明るくするレジャーやエンターテインメントが奪われています。人間が人間らしく生きられない世の中になってしまった。そういう中で、フロンターレは僕にとっても力をもらえる存在でした。スポーツの力って大きい。それを広げるためにこの世界に入ったんだけど、改めて実感した1年でした。

**福田** フロンターレほどオンラインをうまく活用しているところはないんじゃないかと僕は思っているんです。もともとスポーツは制約があるでしょう。サッカーだと手を使っちゃいけないとか。制約があるからスポーツは成り立っているし、楽しみもそこにある。

い表現ですね。

**天野** そう、遠くの憧れじゃなく、身近な存在。スポーツをやっていないときの普段の姿も知っているから、親近感が湧いてきて、一生懸命応援したくなるんです。そこをフロンターレは意識しています。選手がピッチの上だけじゃなく、地域に出て行って。素の姿を見せる。そこから自分たちの代表として戦っているという連帯感が生まれてくると思っています。

## 東京2020組織委員会の経験

**福田** 天野さんが東京2020組織委員会に出向されて得たものには、どのようなものがありますか？

**天野** さつき市長はかけ算とおっしゃいましたけど、かけ算をやるためには、いろいろな

そういう意味で、コロナ禍をバネにオンラインでさらに面白いものを作り出してしまうフロンターレはすごいと思います。

**天野** 大変な状況だからこそオンラインという新しい能力も手に入れることができた。マインナストで、いままでも目を向けていなかったことに目を向けるチャンスだと思うんです。そういう思考回路がフロンターレには備わっているんですね。

**福田** 日本はもともと自然災害の多い国で、危機からのリカバリーを何度も繰り返してきました。川崎も今年が市制97年目ですが、そもそもスタートが関東大震災の1年後です。そこから戦争や公害といった困難な状況乗り越えて、どん底から立ち直るといえることをやってきた。レジリエンスとかいうか、復元力の強い土地柄であり、そこに集まって来る人々には、立ち上がる力が備わっている。

だから、今回のコロナもいち早くリカバリーして、次のもつといい世界へ進んでいく。そして、それができるのは、幾多もの困難を乗り越えてきた川崎という土地と、そこに暮らす人々なんじゃないかなと思うんです。そこに、これからの川崎の可能性がある。僕はそう信じています。

**天野** 川崎には前向きな人が多い。僕もフロンターレの活動を通して、そう感じます。市の職員さんを困らせてしまうかもしれないけれど、また新しい企画を持って相談に行きますよ。

**福田** 大丈夫。一度宇宙を経験しているので、少々のことは驚きません(笑)。



撮影協力：等々力陸上競技場

## Talk about Kawasaki's 20XX 川崎の可能性